



志度高だより 一飛翔の窓一

第105号
(H22.8.26)

「他人の顔」

「男の人って鏡見るの？」同級生の女友達から訊かれ、男だって鏡くらい見るよ、と答えた。久し振りの同窓会。酒が入って口の動きも滑らかで、座は盛り上がっていた。ところが何がきっかけだったか男と女の話になり、ここで女連中が主導権を握ったが最後、男の悪口へと飛び火した。甲斐性なしの男と結婚すると大変なんだからとか、長いこと連れ合っていると男は無神経になるとか、さんざん愚痴を聞かされるはめになり、男の私としては少々座り心地が悪かった。そう言いますけど女だって同じでしょう。歳と共に凶々しくなって、それから……と切り返そうとしたが、彼女たちの顔を見るとそれはできなかった。あな恐ろしや。要するに、歳取ると男は横暴で無礼になる、身だしなみに気をつかわなくなる、不潔になる、ということだった。そこで件の女友達の言葉となった。男は、一度顔も含め自分の姿恰好を鏡で確認すべし、が結論だった。女たちの気焰に男どもは隅で小さくなって飲んでた。みなさん、ちゃんと鏡を見ましようね。歪んだ鏡ではダメですぞ。曇った鏡もダメ。魔法使いサリーちゃんの持っているような、清くて正しい鏡です。

ところで、先日、鼻毛を切ろうと鼻の穴を大判焼きのように膨らませて鏡を覗き込むと、見知らぬ顔がそこにあった。これいったい誰？ 皺くちやで頭髮もすり切れ、見るからに清潔感がない。まさか俺の顔？ 目を疑った。しかし、そうだそれがお前の顔だ、と悪魔の囁きに似た声がした。鏡は真実を語る。そうか、やっぱり俺の顔か。もうお終いだな。俺たちの時代が終わろうとしている。淋しいが、そう感じた。女友達の言ったことは本当だったのだ。

二つ目のところで、朝5時前にテレビのスイッチをひねると、必ず飛び込んでくるのが、通信販売の番組。その中でも圧倒的に多いのが、美容と健康。美脚を作るためとか、ダイエットしないで痩せる方法とか、美容と健康がてんこ盛り状態。

その一つに、某会社の低カロリー食品を食べると、こんなにも痩せちゃいました、というのがあった。その女性、もともと太かったから、私に言わせれば、それくらい痩せて当たり前。そう言ったものの、画面の彼女は確かに以前の彼女とはまったく別人のように痩せていた。いやー、あそこまで痩せるかねー。疑問半分、驚嘆半分。安部公房の小説に、事故で顔を潰した男が妻に分からぬ別顔になる話があったが……。でもあまり痩せると、家族とか恋人さえ当の本人であることに気がつかなくなったりして。まあそのときは潔くリバウンドして元に戻るんですな。

三つ目のところで、私もちょくちょく思うんです。別の顔になれたらさぞかし愉快で面白いだろうな、って。もしそうなったら、皆さんはどうします。私なんぞは人間が下衆っぽいので、不謹慎なことばかり考えて……。人間の顔には責任がある。そう誰かが言ったが、別の顔になれば責任も糞もない。そうなればやりたい放題ということもあり得る。通販でコラーゲンとダイエット食品を買い込んで見事別人になったら、世の中『怪人二十面相』ばかりになったりして。こわー。

でも、ダイエットとか美容整形しなくっても、人間はいくつも顔を持っているはず。紳士が突如狼男になったり、淑女が魔女になったり、こんなこと日常茶飯のこと。鏡を覗いて真実が見えたら、それを真実と受け入れるべし。また多くを望まないこと。そうすれ多少瑕疵のある顔でも、他人の顔よりいいはず。

鏡よ鏡よ鏡さん、よい子にするからわたしをきれいに映してね、とまじないを唱えて鏡を見ると、そこにあるのはやっぱり他人の顔。この悪党みたいな顔、いったい誰？ いやーやっぱり秋刀魚は目黒、そして鏡は曇って歪んだものに限る。

